

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年10月4日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合) [No.155]

## 坂入事件をめぐるJR総連と革マル派との関係を再検証！

前号で紹介した国鉄出身のトラジャで、現在は松崎明氏が会長を務める「国際労働総研」の主任研究員である浅野孝氏は、2000年に発生した坂入氏の拉致・監禁事件の実行犯であるとJR総連が自ら認めた人物である(本情報「No.31」「No.150」参照)。

坂入事件について、浅野氏との関連で解説を補足しておきたい。トラジャと呼ばれる革マル派中央の常任活動家であった浅野氏は、沖縄県委員会と党中央との革マル派の内部対立に際して、沖縄側に同調して党中央と対立し、1994年7月に党中央から拉致・監禁されたことをJR総連が自ら認めている(「No.152」)。しかし坂入事件では、今度はJR総連側と対立する党中央側に立って、坂入氏を自ら拉致しているのである。そして、今は「国際労働総研」の主任研究員として機関誌「われらのインター」にも繰り返し寄稿し、JR総連側の中枢人物になっている。つまり、浅野氏は「党中央側」「沖縄・JR総連側」「党中央側」「JR総連側」と立場を変え、拉致の「被害者」にも「加害者」にもなっているということになる。これは、どう考えてもおかしくないだろうか。

### JR総連は拉致実行犯・浅野氏が身内にいることの矛盾に答えよ！

2008年7月24日、四茂野修・前JR総連副委員長(現国際労働総研監事)が西岡研介氏と東京都を訴えた裁判の本人尋問が開かれ、坂入事件について次のように証言した。

(裁判長) JR総連のOB(注:坂入氏)が監禁されたという事件なのですが、結局、どのような形で解決されたんですか。(四茂野) 最終的には、解放されて、出てきましたので、私たちも告発(注:2000年11月にJR総連が警察に告発状を提出)を取り下げるとい形になりましたが、その後も、その方は、やっぱり、かなり大きな精神的ダメージを受けたようであります。(裁判長) 告発が取り下げられたから、その犯人が捕まったとかいうことはなかったということですか。(四茂野) 既に、告発してから相当の時日が経過しておりまして、その間にも特に捜査が進められたという様子も見られませんでしたので、これは、差し当たり、当面、命を救おうと思ってやった告発ですから、本人が解放されたために、それは取り下げました。

あらためてよく考えていただきたい。坂入氏拉致の実行犯・浅野氏は「国際労働総研」の主任研究員を務めている。警察に告発し犯人の捜索を願い出ておいて、その犯人が、現在は身内にいるというのはどういうことか。そして、四茂野氏も「国際労働総研」の監事だ。2010年7月発行「われらのインター」34号では、四茂野氏、浅野氏、さらに神保順之氏、大久保孟氏が揃って対談している記事が掲載された。JR総連も革マル派も、坂入事件であれだけ騒いでおきながら、2001年8月にJR総連が告発を取り下げ、2002年4月に坂入氏が解放されて以降、ダンマリを決め込んでいるのはなぜか(「No.36」参照)。また、告発の取り下げから同氏の解放まで8ヶ月の間がる。取り下げの時点では、本人はまだ帰宅していなかったものであり、四茂野氏の証言も矛盾している。これは、水面下では、革マル派中央とJR総連に浸透するJR内革マル派との間で何らかの合意があったとしか考えられない。JR総連関係者は、その真相を知らないはずはない。

JR総連は何ら説明責任を果たしていない。JR内革マル派グループは「1999年12月には革マル派との関係を絶った」という主張を信用できるはずがなからう。